

佳作

雲のひみじ

茨城県 筑西市立大村小学校三年 清水 悠

ぼくは、雲って何でできているか知りたいと思い、雲について調べてみました。

雲は、空にうかんでいて、ずっとみていると動いていきます。そして、動きながらどんどん形をかえて大きくなったり小さくなったりします。同じ形の物は、ひとつもありません。雲って、むくむく動いて生き物みたいでおもしろいと思いました。

空の雲には、たくさんのしゅるいがあるようにみえるが、形やできる高さによって大きく十しゅるいに分けられるそうです。すじ雲、うろこ雲、うす雲、ひつじ雲、くもり雲、きり雲、おもしろ雲、雨雲、かみなり雲、わた雲があり、どんな雲が出ているかによって、今の天気やこの後天気がどうかわっていかなどが分かるので、すごいなと思いました。

ぼくが一番感動したことは、雲は水でできている

ことです。水はどう明なのに、白く見えるのがふしぎだと思いました。

なぜ白いかというと、やかんのゆげと同じように、水のつぶからできているからです。海や川や地面の水が、太よりの光であたためられると、水じょう気となって上空へのぼっていき、これが気おんのひくい上空でひやされると、水や氷の小さなつぶにかわって雲となり、白く見えるそうです。

目には見えないほどの小さなつぶがたくさんあつまって、空にうかんでいてすごいなと思いました。

ぼくは、雲をさわることができたら、ふわふわしていて気持ちいいだろうなと思っていたけど、水と氷でできているから、さわっても雲をつかむことができないことがわかり、少しざんねんに思いました。それから、雨や雪は、どうやってできるのかふしぎに思っていました。雨がふっている時の空は、一面がくらしい雲でいっぱいです。

雨は、雲の中で水のおつぶがくっついて大きくなり、雨となって落ちてくるそうです。

また、雪は雲の中で氷のおつぶが大きくなり落ちてくるそうです。

ぼくは、雲についていろんな事が知れて、空を見

るのがますます楽しくなりました。いろんなしゆる
いの雲があることが分かったので、雨がふりそくな
ときは、何の雲か当てたいです。